

II 情報整備調査の概要

吉田剛司¹⁾・山根正伸²⁾・原慶太郎³⁾

Information Management Team of the All-round Research Project of the Tanzawa Mountains

Tsuyoshi Yoshida, Masanobu Yamane & Keitaro Hara

要約

丹沢大山総合調査では、情報整備チームを編成したことにより、これまでの丹沢山系における調査研究で、あまり重視されなかった情報公開や情報共有化といった項目に積極的に取り組んだ。本稿では、情報整備チームの目的と役割の概略を記すことによって、丹沢大山総合調査における情報整備の調査概要を示す。

1. はじめに

丹沢大山総合調査で実施された「生きもの」、「水・土」、「地域」の3分野に関する調査については、その重要性を認識するのは比較的容易である。一方でこれら分野別の調査に加えて、「情報整備」を丹沢大山総合調査に加えたことは、これまでの丹沢に関連する様々な調査研究からみても異なるケースであった。ところが、この情報整備チームを今回の調査の枠組みに組み込んだことは、最終的には本調査の最大の特徴の一つに挙げられた(山根ほか, 2005)。なお情報整備チームの丹沢大山総合調査における役割については、概要を図1に示す。

2. 情報整備チームの構成

情報整備調査では、実施項目に対応する6つの調査グループを設置し(表1)、それぞれにグループリーダーと調査員を委嘱した。また、調査グループへの助言を仰ぐため、6名のアドバイザーを委嘱した。なお他の調査チームとの情報連携を図るために、各チームに情報担当者をそれぞれ推薦してもらい、必要に応じて連絡調整などを行った。

以上から情報整備調査チーム構成員は27名(事務局構成員を含む)となった。

3. 情報整備チームの役割

情報整備チームでは、まず全体会合およびコアメンバー会合において、丹沢大山総合調査における情報管理の枠組みを「e-Tanzawa」と名づけ、その役割、機能などを検討して、基本設計を行った。この結果、e-Tanzawaの利用者、素材、場面、目的、用途がきわめて多様であることが明らかになり(表2)、多様な利用を前提として、多面的なデータを効率的に蓄積、アップデートしていく必要性が示された。また、多面的な情報整備には多大な費用と時間を要することから、外部機関などの既存の情報資源やデータベースと連携しながら共有化を図ることも必要と考えられた。

表1. 情報整備チームの調査実施項目と主な調査体制

グループ名	グループリーダー	調査員氏名
情報ステーション設計・整備 外部情報連携	雨宮有 (GIS Ins) 槐真史 (厚木市郷資館)	山根正伸・笹川裕史 (神保セ) 田中徳久 (生命の星・地球博物館) 秋山幸也 (相模原市立博物館) 神山和夫 (バードリサーチ) 野村浩子 (日本野鳥の会)
丹沢大山保全 対策DB構築	山根正伸 (神保セ)	齊藤和彦 (森林総研究所)
基盤情報整備	笹川裕史 (神保セ)	杉村尚(自然研)
県民向け情報 提供活用	小池文人 (横国大学)	
解析手法開発	吉田剛司 (自然研)	鈴木透(EnVision) 李雲慶 (スペースイメージング) 鎌形哲稔(東京情報大)

表2. 情報チームに求められた役割

要素	内容	用途
利用者	研究者, 利害関係者, 行政関係者, 県民	GISデータベース構築・更新
素材	生態的, 経済的, 社会的ニーズに対応したデータ, 情報, 知識	情報の視覚化
場面	調査・モニタリング, 計画・政策策定, 合意形成, 協働管理	資源の共有
目的	調査支援, 科学と政治の橋渡し, 合意形成・意志決定支援	空間解析, コミュニケーション

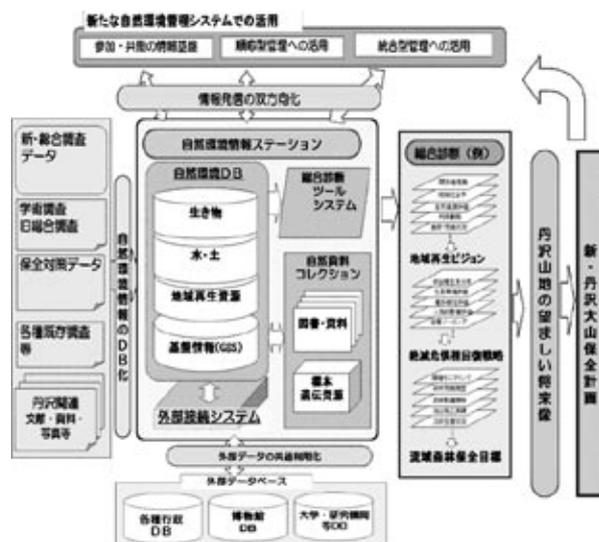


図1. 情報整備チームの役割概念図

1) (財)自然環境研究センター 2) 神奈川県自然環境保全センター
3) 東京情報大学

表 3. 情報整備調査の実施項目，概要および成果

調査項目名	調査概要	成果
情報ステーション設計・整備	総合調査における「生きもの」，「水・土」，「地域」の各再生調査の情報統合とインターネットなどによる双方向提供の仕組みを検討した e-Tanzawa の設計	e-Tanzawa WebGISサーバ
外部情報連携	県内自然系博物館と連携した希少動植物データベースの整備推進	WEB版神奈川RDB(1995年追補版, 2006年度版) 情報登録アプリケーション
丹沢大山保全対策DB構築	丹沢大山保全事業に関連する資料のデジタルアーカイブ作成	丹沢保全対策資料DB
基盤情報整備	基盤となるGISデータを収集・整理の追加作成，利用公開のルール検討	e-TanzawaBase
県民向け情報提供活用	e-Tanzawaの県民利用方策，利用環境の検討と開発	普及啓発資料 情報利活用無料ツール
解析手法開発	総合調査成果の視覚化，総合解析の手法を検討と政策検討への貢献	アトラス丹沢
e-Tanzawa	総合調査における「生きもの」，「水・土」，「地域」の各再生調査の情報を統合し，調査員へのすみやかな提供と県民公開	e-Tanzawaの段階的構築
アトラス丹沢第1集	丹沢大山自然環境総合調査の成果と丹沢大山総合調査の課題をGIS化して公開	H16年度成果品(概要版冊子とCD, WEB版)
アトラス丹沢第2集	丹沢大山総合調査の最終成果をGIS化して県民向けに公開	最終報告書成果品(冊子, WEB)

4. 情報整備チームの成果

調査の成果としては，運用中の e-Tanzawa が挙げられる(詳細は次節)．この e-Tanzawa は，総合調査での役割に加えて，日本各地の自然再生や環境情報整備における事例として様々な研究会や部会で紹介されている．また情報整備チームでは，GIS(地理情報システム)を活用した丹沢大山総合調査の成果の地図ベース，また地図情報を視覚化した一般向け資料(アトラス丹沢)と実行委員会向け(政策検討主題図)の製作した．

個別調査及び成果の概要は表 3 に示すが，それぞ

れの成果は次節以降に詳細にまとめられており，また e-Tanzawa (<http://e-tanzawa.jp>) からダウンロードも可能である．

文献

山根正伸・笹川裕史・吉田剛司・鎌形哲稔・雨宮 有・鈴木 透・金子正美・原 慶太郎, 2005. 自然再生事業を支援する統合的自然環境 GIS の構築—神奈川県丹沢大山総合調査の取り組みから—, 地理情報システム学会講演論文集, 14: 589-592